

令和3年度

山形県公立高等学校入学者  
選抜学力検査成績概況

令和3年6月

山形県教育委員会



<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

資 料

令和3年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

# 国 語

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

□の問六は、文章における表現の工夫の効果をとらえる力をみる問題だが、正答率が約7割であり、学習の成果がみえる。表現の仕方について分析し、その効果や書き手の意図について考える学習を継続することが大切である。□の問二は、異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめたり、話し合いの内容を評価したりする力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、「話すこと・聞くこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。論理的な構成や展開を考えて話したり、聞き取った意見や主張の根拠を確かめて判断したりすることを心掛けたい。□の作文は、資料から目的に応じて必要な情報を読み取り、体験や知識と関連付けながら自分の考えを的確に表現する力をみる問題である。7割を超える受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「体験を踏まえながら自分の考えを深められていない」との報告も寄せられている。目的に応じて情報を選択・整理した上で、文章の構成を工夫しながら自分の考えを表現する能力を身に付けたい。

### (2) 課題がみえる問題

□の問三は、登場人物の言動の意味について、文章に即して理解する力をみる問題だが、正答率は低く、課題がみえる。登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようにかかわっているかを考える学習に丁寧に取り組みたい。□の問三は、例示の効果や文章の論理の展開の仕方をとらえる力をみる問題だが、正答率が5割にとどまり、課題がみえる。文章中に示されている具体的な例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考える学習を心掛けたい。□の問四(1)は、文章の展開に即して内容をとらえる力をみる問題であるが、部分点を含め正答率が6割を超えているが、比喩を的確に解釈できていない解答や、条件に即していない解答が目立つなど、課題がみえる。文章を読むときには、文章の構成や展開、表現の特徴を踏まえた上で、書き手の考えをとらえ、それを的確に表現できるような学習に取り組みたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

### (1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

### (2) 主体的に読書に取り組むことができる

知識を広げたり、自分の考えを深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、主体的に読書に取り組み、集めた情報を活用することができる。

### (3) 授業者は「目指す資質・能力」の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、育成する資質・能力を焦点化して単元の目標を設定し、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切に授業を構想し、単元の目標の実現に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、育成を図る資質・能力が定着したかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

国語 問題別正答率 (%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

問 問七「情報」「要素」「全体」が用いられており、本文に即した内容であること。	6	3	3	2	4	3	2	2	2	27	
	-----										
	問七(例)	問六	問五	問四(例)			問三	問二	問一		二
	し	す	に	単	研	社	い	情	イ		
	て	状	結	な	究	会	う	報	ン		
	開	態	び	る	を	的	特	を	タ		
	か	に	つ	要	大	に	徴	瞬	一		
	れ	転	き	素	発	蓄	。	時	ネ		
	て	化	、	と				に	ッ		
	い	し	全	し				得	ト		
る	た	も	と				る	検			
も	の	の	し				こ	索			
の	。	で	て				と	の			
		外	系				が	知			
		に	を				で	り			
		対	な				き	た			
			的				る	い			
完 解	4.9										
50~99%	15.2										
1~49%	22.8										

問 問七「情報」「要素」「全体」が用いられており、本文に即した内容であること。	2	4	3	5	3	4	2	2	2	27		
	-----											
	問七(例)	問六	問五(例)	問四	問三(例)	問二	問一	問一			一	
	才	ば	安	の	生	描	い	ぬ	あ			
	能	か	心	人	ま	き	たい	ぬ	あ			
	が	り	す	の	れ	いた	い	り	っ			
	あ	選	る	心	も	い	絵	つ	っ			
	る	ん	た	に	っ	に	に	つ	っ			
	と	で	め	残	た	つ	い	て	の			
	信	い	に	る	才	い	て	の	ビ			
じ	た	、	作	能	て	の	ビ	ジ				
て	描	き	品	を	を	シ	ョ	ン				
も	や	す	を	生	生	む	シ	ト				
ら	う	い	む	む	む	む	シ	ト				
う	こ	も	こ	こ	こ	こ	シ	ト				
こ	と	の	の	の	の	の	シ	ト				
完 解	0.0											
50~99%	12.5											
1~49%	39.5											

問 問三 本文に即した内容であること。 問五 本文に即した内容であること。 問七 本文に即した内容であること。	備 考
------------------------------------------------------------------	--------

(3) 書写・表記 3	(2) 構想・叙述 6	(1) 内容 9	18	
A B C	A B C D	A B C D		
A B C	A B C D	A B C D		
(3) 書写・表記 文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。 文字が正しく、配列など、文字が整っているか。	(2) 構想・叙述 二段落で構成されており、二〇〇字以上二四〇字以内で書かれてあるか。 第一段落には、AとBの二つの資料について、資料が訴えていることが、効果的に伝えるために、自身の体験や見聞きしたことを踏まえて、自分の考えを述べられているか。 第二段落には、自分の体験や見聞きしたことを踏まえて、自分の考えを述べられているか。	(1) 内容 AとBの二つの資料について、資料が訴えていることが、効果的に伝えるために、自身の体験や見聞きしたことを踏まえて、自分の考えを述べられているか。 第一段落で述べられている内容が、第二段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。	五	
14点~18点 31.2	9点~13点 40.7	5点~8点 20.9		1点~4点 5.3

3	2	2	2	2	2	13
-----						
問二	5	4	3	2	1	
ウ	設	候	敵	寄	荷	四
	営	補	密	せる		
73.8	65.4	66.5	66.2	73.0	84.4	

問 問四 本文に即した内容であること。「がんばれば、学問をきわめる」などでもよい。	備 考
----------------------------------------------	--------

4	4	3	2	2	15
-----					
問五	問四(例)	問三	問二	問一	
エ	努力すれば、大きな成果をあげる	イ	C	いにしえ	三
68.1	47.5	63.9		97.7	
完 解	0.0				
50~99%	12.5				
1~49%	39.5				

# 社 会

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の5(1)は、世界の諸地域について、資料を読み取り、思考・判断する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。資料を的確に読み取る学習や、世界各地における人々の生活の様子について思考・判断する学習が十分に行われていることがうかがわれる。④の4は、資料を読み取り、歴史的事象を説明する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。各時代の特色や時代の転換の様子をとらえる学習が十分に行われていることがうかがわれる。①の2、②の5、⑤の3、⑥の1は基礎的な知識・理解をみる問題であるが、正答率が約9割と高く、日常の学習において、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の習得が図られていることがうかがわれる。

### (2) 課題がみえる問題

③の1(2)は、各時代の社会の特色をとらえる力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。高等学校からは「古墳時代と弥生時代を混同している」との報告が寄せられている。我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解することが大切である。⑤の2(2)は、民主政治の仕組みについての資料をもとに、思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。制度や仕組みの意義や働きについて理解するとともに、社会的事象について考えたことを説明する活動を通して、思考力、判断力、表現力を養いたい。⑥の3(1)は、基礎的な知識・理解を問う問題だが、正答率が低く課題がみえる。政治や経済の基本的な考え方や概念を具体的な事例を通して学ぶとともに、国や地方公共団体が果たしている役割について考える学習を心掛けたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

### (1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味・意義や特色、事象間の相互の関連を説明したり議論したりすることができる。

### (2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について、多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

### (3) 授業者は、適切な課題の設定と協働的な学びの充実を

授業者は、生徒の気付きや疑問を生かした単元を貫く課題（問い）を設定したい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を育成するため、協働的な学びや、思考・判断したことを表現し合う場の充実を図りたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせることができるようにする発問、問い返し等の教師の働きかけによって、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

18		1	
3	1	B → D → C → A	56.7
2	2	バイオ燃料	89.0
2	3	アポリジニ	78.7
3	4	(例) 東ヨーロッパの国々は、賃金が安いから。	71.9
2	(1)	イ	87.1
3	(2)	(例) 雨が多く、1年を通して気温が高いから。	79.5
3	6	ア	49.4

問	備 考
1	1 全部できて正答とする。 2 「バイオエタノール」などでもよい。 4 「賃金」が用いられていること。
3	3 「座の特権を廃止すること。」などでもよい。 4(2) 「藩」が用いられていること。

17		2	
2	1	ウ	53.2
2	2	ウ	68.1
2	3	伝統的工芸品	43.3
3	4	(例) 北関東自動車道が全線開通した	53.2
3	5	ヒートアイランド現象	86.7
2	6	養殖	63.9
3	7	イ	56.7

18		3	
2	1	(1) 増輸	48.3
3	(2)	エ	20.9
2	2	万葉集	81.0
3	3	(例) 市場の税を免除すること。	59.3
2	(1)	浮世絵	72.2
3	(2)	(例) 藩が置いた蔵屋敷	41.1
3	5	ウ	74.9

17		4	
3	1	文明開化	64.6
3	2	ア	51.0
2	3	日英同盟	74.5
3	4	(例) 20歳以上の男女に選挙権が与えられるようになったから。	84.0
3	5	京都議定書	73.8
3	6	イ	84.8

問	備 考
5	2(2) 「信任」「責任」が用いられていること。
6	3(2) 「税を納める人」「税を負担する人」が用いられていること。

15		5	
2	1	(1) 社会権	80.6
3	(2)	公共の福祉	58.6
2	(1)	ア	66.9
3	(2)	(例) 内閣が、国会の信任にもとづいて成り立ち、国会に対して連帯して責任を負う制度。	47.5
2	(3)	エ	76.8
3	3	少子高齢化	90.9

15		6	
2	1	エ	87.5
2	2	ウ	68.4
2	(1)	社会資本	44.1
3	(2)	(例) 税を納める人と税を負担する人が異なる税。	72.6
3	(1)	男女雇用機会均等法	61.6
3	(2)	ベンチャー企業	69.2

# 数 学

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の2は、二次方程式の解を求める力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。解の公式を知り、二次方程式を解けるようになるだけではなく、解の公式が導かれる過程を知ることにも重視したい。②の4は、資料を活用して、判断の根拠を的確に表現する力をみる問題だが、受検者の55.3%が5割以上得点しており、学習の成果がみえる。大切なことは、何を根拠にして資料の傾向をとらえ説明しているのかを明らかにすることである。説明し伝え合う活動を通して、同じ資料から様々な解釈ができることを知り、お互いの説明やその根拠とする事柄についての理解をさらに深めたい。③の1は、伴って変わる二つの数量関係をとらえ、考察する力をみる問題だが、(1)と(2)のグラフの正答率はともに8割を超えており、学習の成果がみえる。関数の特徴を、表、式、グラフでとらえるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めることが大切である。

### (2) 課題がみえる問題

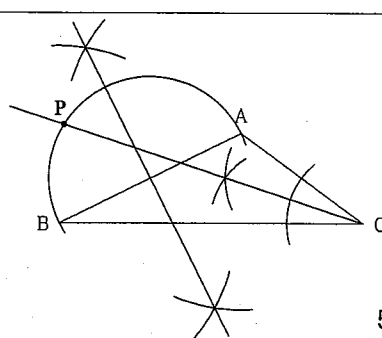
①の5は、空間における直線や平面の位置関係を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。実際に立体を作ったり、観察したり、それを用いて説明する活動を通して、直線や平面の位置関係を理解できるようにしたい。②の3は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量関係をとらえて式に表現する力を身に付けたい。③の2は、グラフの特徴を読み取り、事象を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。実験や観察の結果を理想化したり単純化したりすることで一次関数とみなし、表、式、グラフを用いて処理し予測できることのよさを知り、事象の考察に生かせるようにしたい。

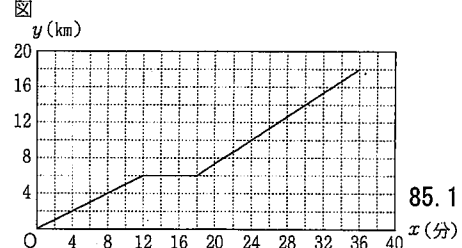
## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

- (1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる  
授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、問題解決の方法を一人一人が見いだし、自立的、協働的に解決することができる。
- (2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる  
授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。
- (3) 授業者は、生徒が学びを広げ深める数学的活動の充実を  
数や式、図、表、グラフ等を関連付けて、論理的に思考したり、表現したりする活動を大切にしたい。また、生徒の思考過程を見取り、場に応じた働きかけを工夫することや、解決の過程や結果を振り返って、統合的・発展的に考察する機会を大切にしたい。



1	32		1	(1)	7	95.8
	3	(2)		$-\frac{1}{2}$	83.2	
	4	(3)		$12x^2y$	75.6	
	4	(4)		$-2\sqrt{2}$	88.5	
	5	2		$(x-4)(3x+2)=-8x-5$ (例) $3x^2+2x-12x-8=-8x-5$ $3x^2-2x-3=0$ $x = \frac{-(-2) \pm \sqrt{(-2)^2 - 4 \times 3 \times (-3)}}{2 \times 3}$ $= \frac{2 \pm \sqrt{40}}{6}$ $= \frac{2 \pm 2\sqrt{10}}{6}$ $= \frac{1 \pm \sqrt{10}}{3}$	82.8	
	4	3		答 $x = \frac{1 \pm \sqrt{10}}{3}$		
	4	4		$18\sqrt{3}$	cm <sup>3</sup> 57.6	
	4	4		エ	66.0	
	4	5		エ	18.3	

2	28		2	(1)	$-8 \leq y \leq 0$	67.9				
	1	(2)		-1	43.9					
	2			53.4						
	3	(1)		(例) 大きい袋の枚数を $x$ 枚とする。 $8x+5(50-x)+67=10x+6(50-x-2)+5 \times 2$ (例) 大きい袋の枚数を $x$ 枚, 小さい袋の枚数を $y$ 枚とする。 $\begin{cases} x+y=50 \\ 8x+5y+67=10x+6(y-2)+5 \times 2 \end{cases}$	50.0					
	3	(2)		374	個 19.8					
	4	(例) 最頻値を比べると, 知也さんは 6.5 m, 公太さんは 5.5 m であり, 知也さんのほうが大きいから。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>100%</td> <td>26.3</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>29.0</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>14.5</td> </tr> </table>		100%	26.3	50~99%	29.0	1~49%	14.5	
	100%	26.3								
	50~99%	29.0								
	1~49%	14.5								
	4	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>100%</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>71.4</td> </tr> </table>		100%	1.5	50~99%	3.4	1~49%	71.4	
100%	1.5									
50~99%	3.4									
1~49%	71.4									
3	$\frac{\sqrt{7}}{3}$	cm <sup>2</sup> 0.4								

3	21		3	(1)	午前 10 時 8 分	83.6
	3	ア		$y = \frac{1}{2}x$	70.6	
	3	イ		36	55.3	
	3	ウ		$y = \frac{2}{3}x - 6$	43.5	
	3	2		図 	85.1	
	3	エ		30	53.1	
	3	オ		36	8.8	

4	19		4	1	$80^\circ$	63.7				
	2	<証明> (例) $\triangle OCH$ と $\triangle OEF$ において 共通だから $\angle COH = \angle EOF$ ..... ① 半円の半径だから $OC = OE$ ..... ② $\triangle OCB$ は $OC = OB$ の二等辺三角形だから $\angle OCH = \angle OBC$ ..... ③ 仮定より四角形 $OBGD$ は平行四辺形であり, 平行四辺形の対角は等しいから $\angle OBC = \angle ODE$ ..... ④ $\triangle ODE$ は $OD = OE$ の二等辺三角形だから $\angle ODE = \angle OEF$ ..... ⑤ ③, ④, ⑤より $\angle OCH = \angle OEF$ ..... ⑥ ①, ②, ⑥より, 1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので $\triangle OCH \cong \triangle OEF$								
	3	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>100%</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>71.4</td> </tr> </table>		100%	1.5	50~99%	3.4	1~49%	71.4	
	100%	1.5								
	50~99%	3.4								
	1~49%	71.4								
	3	$\frac{\sqrt{7}}{3}$		cm <sup>2</sup> 0.4						

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については, 各学校で適正な基準を設けること。

# 理 科

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

[1]の1(2)、1(3)、[3]の1(1)は、第2分野についての基本的な知識・理解をみる問題であるが、正答率はいずれも約9割と高く、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識が定着していることがうかがわれる。[5]の1、[6]の1(2)は、実験についての技能や観察された現象を解釈し表現する力をみる問題だが、いずれも正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。実験操作を行う意味や現象が起こる理由について正しく理解し、的確に表現する態度が養われていることがうかがわれる。[5]の2(1)、[7]の1(3)は、観察や実験の結果から導き出した考えを表現する力をみる問題であるが、正答率はいずれも約8割であった。今後も、科学的な知識や概念を使用して思考したり説明したりするなどの学習活動を充実させるように心掛けたい。

### (2) 課題がみえる問題

[3]の1(2)、[5]の2(3)は、実験の結果を読み取り活用する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。目的意識をもって実験に取り組み、実験の結果について思考、考察することが大切である。[8]の3は、実験の結果をもとに、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。実験の結果を分析して解釈し、科学的な知識と結び付けるような学習活動を充実させるように心掛けたい。[2]の1(1)は、観察記録や資料をもとに、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が約2割と低く、課題がみえる。身近な自然環境などを調べる観察・実験を行い、科学的に考察して判断する学習活動を大切にしたい。[7]の2は、科学と実社会・実生活とのかかわりについて思考し、表現する力をみる問題だが、正答率が低かった。身近な事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、科学的に探究する態度を養いたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

- (1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる  
自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的にとらえたりすることができる。
- (2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる  
観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した計画が立案できる。観察・実験の結果をもとに課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。
- (3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を  
授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、単元全体に探究の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

1	13	1	(1)	おしべ	83.7	
			1	(2)	合弁花	92.0
			3	(3)	ケ → キ → ク → コ	89.7
			2	(1)	(例) 試料を乾燥させないようにするため。	52.5
			3	(2)	2 個	11.8

2	12	2	(1)	A	20.9	
			1	(2)	(例) 在来種の生存をおびやかす、自然のつり合いをくずす。	79.5
			2	(1)	動脈血	61.6
			3	(2)	ア	52.9

問	備考
1	1(2) 「合弁花類」でもよい。
2	1(2) 「在来種」「つり合い」が用いられていること。

3	12	3	(1)	露点	92.0	
			1	(2)	ウ	40.7
			3	(3)	(例) 空気中の水蒸気の量が減ったため。	55.9
			2		オ	48.7

4	13	4	1	風化	84.0	
			2	エ	51.3	
			3	(1)	カ	62.7
			3	(2)	(例) (マグマが) 地下深くでゆっくりと冷えてできた。	83.3
			4		隆起	57.8

問	備考
3	1(3) 「湿度が低くなったため。」などでもよい。

5	13	5	1	(例) 石灰水が試験管の中に逆流するのを防ぐため。	84.4	
			2	(1)	$2\text{Cu} + \text{CO}_2$	76.4
			2	(2)	ア	81.7
			3	(3)	イ	39.9
			3		銅 : 酸素 = 4 : 1	69.6

6	12	6	(1)	エ	66.2	
			1	(2)	(例) 水に溶けやすい	80.2
			3	(3)	$\text{Cl}^-$	62.0
			2		イ, オ	25.1

問	備考
6	2 すべてできて正答とする。順序は問わない。
7	2 「焦点」が用いられていること。

7	12	7	(1)	反射	64.6	
			1	(2)	ウ	57.0
			3		図2	77.2
			2		(例) 物体が凸レンズと焦点の間にある。	39.5

8	13	8	1		図4	61.2
			2	(1)	イ	64.6
			2	(2)	14 cm/s	59.7
			3		オ	29.3

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

# 英語

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の1は、対話文を聞いて、事実や出来事などについての情報を正確に聞き取る力をみる問題だが、No.1、No.2ともに正答率が高く、学習の成果がみえる。授業での言語活動を通して、聞き手として必要な情報や話し手が伝えたいことを、聞いて理解できるようになっていることがうかがわれる。②の3(1)は、正答率が高く、学習の成果がみえる。基本的な言語材料を繰り返し学習することにより、語と語のつながりなどに注意し、正しい語順や語法を用いて文を構成する力が定着していることがうかがわれる。④の1は、物語の内容を的確に読み取り、質問に適切に答える力をみる問題だが、正答率は8割に近く、学習の成果がみえる。物語の大切な部分をとらえて読み取る力が定着していることがうかがわれる。

### (2) 課題がみえる問題

②の1(3)は、基本的な言語材料を場面に応じて適切に活用する力をみる問題だが、正答率が低かった。単に文法規則や語彙などについての知識を身に付けるだけでなく、それを活用する力を付けることが大切である。授業などでは、様々な言語活動に積極的に取り組み、実際に言語を使用しながら基本的な語彙を活用して習得したい。④の5は、物語の展開を把握する力をみる問題だが、正答率は5割を下回り、課題がみえる。登場人物の考えや心情など、書かれた内容を適切に理解することに加え、物語の大まかな流れをつかみながら読み取る力を身に付けたい。④の6Ⅱは単に物語を読み取るだけでなく、「読むこと」と「書くこと」を統合的に活用する問題であるが、正答率が低く課題がみえる。「読むこと」を通じて得た知識等について活用し、「書くこと」を通じて発信できるようにしたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

- (1) 学習した表現を活用しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる  
授業での様々な言語活動において、学習した表現を活用して、相手の考えを理解したり、自分の考えを積極的に伝えたりすることができる。
- (2) 英語で聞いたり読んだりしたことをもとに、自らの考えや気持ちなどを英語で伝えることができる  
授業での言語活動で「聞くこと」や「読むこと」を通して学んだことをもとに、自分の体験などと結び付けながら思考し、話したり書いたりして、自分の考えや気持ちを英語で発信することができる。
- (3) 授業者は、「付けたい力」を明確にし、身に付けた知識及び技能を選択しながら活用する学習活動の充実を  
生徒の実態や学年・領域別の目標をもととして、授業における明確な目標を設定し、生徒と共有したい。また、言語活動を核とし、目的や場面、状況等に応じて、思考・判断・表現することを繰り返す授業づくりを図りたい。

26		1	
3	1	No.1	エ 96.6
3	1	No.2	イ 77.6
3	2	ア	8か月 58.2
3		イ	観光 29.3
3	2	ウ	湖 71.1
3		No.1	イ 68.1
3	3	No.2	ウ 62.7
5	4	Judy: It's a nice day for fishing. ----- Keita: Yes, it is. ----- We will ( be able to catch several kinds of ----- 76.8 ) fish today.	

問	備考
1	2 対話文に即した内容であれば正答とする。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 (2) 全部できて正答とする。
3	1 対話文に即した内容であれば正答とする。 2 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2		18	
1	(1)	seasons	67.3
	(2)	where	58.6
	(3)	daughter	31.2
2	(1)	エ	64.3
	(2)	ウ	67.3
3	(1)	X イ Y ウ Z ア	75.7
	(2)	X オ Y カ Z ア	38.0

3		16	
1	X	寺	73.8
	Y	言語	87.5
	Z	生活様式	83.3
2	(例) 二つの飛行機の間を、かばんを持っている人が歩 いている様子。		52.5
3	*ア		68.1
	*オ		82.1

30		4	
4	1	(例) 美穂さんがレポートの題材を決めること。 78.7	
4	2	( C ) 66.2	
3	3	イ 63.9	
3	4	(1)	(例) Yes, she did. 75.3
3		(2)	(例) It was built about two hundred years ago. 65.8
5	5	エ → ウ → オ → ア → イ 41.4	
4	6	I	( (例) How long did it 46.8 ) take to write it?
4		II	He thinks it's important for ( (例) us to live with 44.5 ) nature.

問	備考
4	1 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。

5		10	
【評価の観点】			
(1) 内容			
○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。			
○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。			
○ 4文以上の英文で、文と文のつながりなどに注意して書いているか。			
(2) 正確さ			
○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。			
○ 文構造や語法などの知識を活用して、正しく書いているか。			
A	A	(1)内容	8
	B		
	C		
B	A	(2)正確さ	2
	B		
	C		

問	備考
5	(例) You should talk to him, and ask what sports he likes. If he likes soccer, you can talk about favorite players. You can also play it together. I am sure that you can be his friend, and help him. 正答率 74.2

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

**令和3年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況**  
(入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	
中学校卒業生数		10,608	10,276	9,798	9,613	9,112	
全 日 制	県 立	入学定員	7,240	7,080	6,840	6,720	6,720
		入学志願者等の数	7,410	6,876	6,426	6,203	5,786
		倍 率	1.02	0.97	0.94	0.92	0.86
		合格者等の数	6,712	6,396	6,000	5,829	5,400
		最終倍率	1.01	0.96	0.93	0.91	0.85
		充足率	92.7%	90.3%	87.7%	86.7%	80.4%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	356	340	336	364	338
		倍 率	1.27	1.21	1.20	1.30	1.21
		合格者等の数	280	282	282	283	282
		最終倍率	1.27	1.21	1.20	1.30	1.21
		充足率	100.0%	100.7%	100.7%	101.1%	100.7%
	合 計	入学定員	7,520	7,360	7,120	7,000	7,000
		入学志願者等の数	7,766	7,216	6,762	6,567	6,124
		倍 率	1.03	0.98	0.95	0.94	0.87
		合格者等の数	6,992	6,678	6,282	6,112	5,682
		最終倍率	1.02	0.97	0.94	0.92	0.86
		充足率	93.0%	90.7%	88.2%	87.3%	81.2%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	101	127	124	127	103	
	倍 率	0.36	0.45	0.44	0.45	0.37	
	合格者等の数	98	119	122	123	102	
	最終倍率	0.35	0.44	0.44	0.45	0.37	
	充足率	35.0%	42.5%	43.6%	43.9%	36.4%	
総 計	入学定員	7,800	7,640	7,400	7,280	7,280	
	入学志願者等の数	7,867	7,343	6,886	6,694	6,227	
	倍 率	1.01	0.96	0.93	0.92	0.86	
	合格者等の数	7,090	6,797	6,404	6,235	5,784	
	最終倍率	1.00	0.95	0.92	0.91	0.84	
	充足率	90.9%	89.0%	86.5%	85.6%	79.5%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9年生の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員  
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者数等の数÷入学定員×100

## 2 課程別・学科別

課程	区 分	入学定員		受検者等の数		合格者数等の数		
	学 科	人 数	前年度比	人 数	最終倍率	人 数	充足率	
全 日 制	普通科	3,360	0	3,008	0.90	2,995	89.1%	
	専門教育を主とする学科	理 数	80	0	124	1.55	80	100.0%
		探 究	240	0	451	1.88	243	101.3%
		音 楽	40	0	15	0.38	15	37.5%
		体 育	80	0	86	1.08	80	100.0%
		農 業	400	0	230	0.58	229	57.3%
		工 業	1,160	0	875	0.75	873	75.3%
		商 業	600	0	547	0.91	490	81.7%
		水 産	80	0	29	0.36	29	36.3%
		家 庭	80	0	45	0.56	49	61.3%
		看 護	40	0	48	1.20	40	100.0%
		情 報	40	0	39	0.98	39	97.5%
	総合学科	800	0	531	0.66	520	65.0%	
合 計	7,000	0	6,028	0.86	5,682	81.2%		
定 時 制	普 通	200	0	90	0.45	89	44.5%	
	工 業	80	0	13	0.16	13	16.3%	
	合 計	280	0	103	0.37	102	36.4%	
全 定 合 計		7,280	0	6,131	0.84	5,784	79.5%	

(注)

- (1) 入学定員の増減はなし
- (2) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数  
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

### 3 推薦入学者選抜実施状況

区 分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専 門 教 育 を 主 と す る 学 科											総合学科
			理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員	3,360	80	240	40	80	400	1,160	600	80	80	40	40	800	
募集人員	—	—	—	20	56	96	288	122	24	24	12	10	166	
志願者数	—	—	—	13	74	72	303	158	6	22	37	10	106	
内定者数	—	—	—	13	60	70	242	126	6	19	12	10	99	
志願倍率	—	—	—	0.65	1.32	0.75	1.05	1.30	0.25	0.92	3.08	1.00	0.64	
充足率	—	—	—	65.0%	107.1%	72.9%	84.0%	103.3%	25.0%	79.2%	100.0%	100.0%	59.6%	

区 分	全 日 制
	計
入学定員	7,000
募集人員	818
志願者数	801
内定者数	657
志願倍率	0.98
充足率	80.3%

区 分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	—	—
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区 分	全 日 制 ・ 定 時 制 総 計
入学定員	7,280
募集人員	約 818
志願者数	801
内定者数	657
志願倍率	0.98
充足率	80.3%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
  - (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
  - (3) 推薦選抜で志願者があった学校  
全日制：25校（前年25校）  
60学科（前年64学科）
  - (4) 募集人員（実施要項より）  
理数科：20%程度（実施校なし）  
音楽科：50%程度  
体育科：70%程度  
職業に関する学科：30%以内  
総合学科：30%以内
- ※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したもの